

## 相談室（６）

Ｑ 有名進学校へ行けば、みんな良い大学へ行けるか。

Ａ そんな夢のような話はありません。

県立高校の場合なら、この地区のトップの高校でも有名大学へ進学するのは、毎年多くて上位の２割程度であり、他は、１、２ランク下の高校の上位の生徒と大差のない難易度の大学へ進学しています。

意外でしょうが、県立の有名進学校の場合は、有名大学へ進学しない人の方が圧倒的に多いのが現実ということになります。

「レベルの高い進学校へ行きたい！」と言う中学生にその理由を尋ねると、だいたい「良い大学へ行けるから」と返事が返ってきます。

また、一般の認識も同じようなもので、その高校の生徒は「みんな良い大学へ行ける」のような話になっています。

しかし、トップレベルの進学校では、中学校時代には上位１ケタの成績だった人が、３ケタの成績、あるいは下位の成績になっても当たり前の世界です。

中学校時代よりも、はるかに厳しい学力競争の中で、少し気を抜くとあっという間に授業について行けなくなるケースも、少なくありません。

有名進学校には、『学力注入マシン』が設置してあるわけではありませんので、そこに進学し、ただ授業を受けたからといって、自動的に高い学力が得られることはないのです。

すべては自分の能力と努力の結果、これが厳しい現実です。

したがって、レベルについて行けない場合は、精神的なダメージも重なり、普段の勉強も手につかない事態も起こりますので、『良い大学』どころか、中堅クラスの大学に合格する学力も危なくなってしまうでしょう。

公立では下位とされる商業高校の生徒が三年間水泳を続け、学校推薦でＳ大学へ、その一方で公立ではトップレベルとされる高校の生徒が、三年間受験勉強に耐え、かろうじて同じＳ大学へ。

また、同じセンター模擬試験を受けた結果、公立のトップの高校の生徒よりも、３番手ぐらいのランクの高校の生徒の方が高得点。

このような高校進学後の学力の逆転現象の事例はいくらでもありますから、高校のレベルと個々の生徒の学力とは別物と言えます。

つまり、高校進学後の学力は、中学校時代の成績とは無関係で、いくらでも逆転は可能であるということです。

ただ、『良い大学』というのは、有名で偏差値が高い、それだけではないでしょう。実際に、難易度はそれほど高くなく、知名度もそれほどではありませんが、企業や専門家の評価は極めて高い金沢工業大学、多摩大学のように優れた大学もあります。

人間はトータルバランスだと思いますので、出身大学の名前だけでは生きてはいけません。

本人がそこで何を学び、それをどのように将来につなげるのかだと思いますし、学校名にこだわっていると、ほとんどの人は、生涯満たされないままで終わってしまうでしょう。

[追記] 面接の際に、あるお母さんから  
「『良い高校に行けば良い大学に行ける』、あれって嘘ですよ！」  
と同意を求められました。  
上のお子さんの時に、それを信じて家族全員大変苦勞されたそうです。  
退学 → 転校 → 退学 → 高認試験 → 大学  
と5年間を要し今も大学生だそうです、「人生経験」で済ませるにはあまりに  
過酷な気がします。

---

Q トップの高校では下位の学力でも、1ランク下の高校では上位になれるか。

A たぶん無理でしょう。

最初から1ランク下の高校へ進学すれば、上位に行ける可能性はありますが、高校での学力は中学校時代の成績や学力とはほとんど関係ありませんので、それもそう簡単な話ではないと思います。

もちろん、レベルの高い高校の下位の生徒が、1、2ランク下の高校なら上位に行ける、その可能性も少ないでしょう。

少し具体的な話をします。

高校進学時は、中学校の上位10人がA高校、次の20人はB高校、次の15人はC高校・・・、のように能力順位ではなく学力順位に応じて受験します。

そして、高校入試の段階までは、学力では、B高校の受験者のほとんどがA高校の受験者には勝てないでしょう。

しかし、高校進学後は、新たにゼロからの出発ですから、中学校時代の学力は保険にも貯金にもなりません。

また、高校では、学習内容の難易度も学習量も一気にアップしますので、暗記主体でも高得点が得られる中学校時代とはちがって、本来持っている対応能力や思考力の差がはっきり出てしまいます。

少し付け加えます。

県立高校の入試問題のレベルは、時間をかけて問題を反復すれば解けてしまう程度の内容ですから、能力の高い子でも、きちんとやらなければ、能力では劣るがきちんとやる子に負けてしまいますし、入試問題が易しいぶん、下線部の学習法でもトップレベルの高校に合格できてしまいます。

しかし、高校の学習内容は、時間をかけて問題量をやっても消化できない、これが中学と高校の違いで、結局は、努力だけでは補えなくなってしまうのです。

その結果、本来の能力は高いのに中学校ではあまり勉強しなかったためB高校へ行き本領を発揮した生徒が、中学校時代に時間と量で機械的に学力をつけA高校に進んだ生徒よりも学力が高い、こうした現象はいくらでも起こっていますし、前者のほうが元々の学習能力は後者よりも高かったということになるでしょう。

高校ではなかなか思うような成績が取れないのが普通ですが、トップの進学校では、状況は更に厳しくなります。

上でも同じことを書きましたが、中学時代には学年順位1ケタの子が一気に3ケタに、テストでは満点に近い点数ばかりだったのに、その半分も得点できない。

更には、頑張っても頑張っても成績は上がらない。

そうした状況の中で受ける精神的なダメージは測り知れませんし、平常心で勉強を続けるのは、よほどタフな精神力の持ち主でなければ無理でしょう。

途中で諦めてしまっても不思議ではありません。

その状態での学力は、トップレベルの進学校の生徒でも、残念ながら他校へもっていても上位には入れないでしょうし、1ランク下の高校でも下位になってしまう可能性も否定できません。

---

Q 良い大学を出た人の方が何かと有利か。

A 残念ながら、この国では否定出来ない事実だと思います。

しかし、現実問題として、良い大学と評価されるいくつかの大学の合格者定員を全部合わせても、全国の同学年の1%程度の人数です。

地方の公立中学校で言えば、その中学校からトップの進学校に進んだ子供の中から年に1人合格するかしないか、それほどの狭き門です。

「良い大学を出る」以前に、「良い大学へ入る」のが至難ですから、ほとんどの人には無縁な、別世界の話と考えた方が気が楽だと思います。

また、ほとんどの子供達は良い大学へは行かないのですから、

「良い大学を出ないと良い人生は送れない」

こんな夢のない無理難題を子供に押しつけない、こちらの方が大切ではないでしょうか。

大学入試は、一般の認識よりも格段に難しく、有名大学ともなれば、要領や努力以前に、相当に高い学習能力がなければ合格するのは不可能だと思います。

中学校時代に成績優秀だった子供たちは、だいたい地区のトップレベルの進学校に進むでしょうが、高校三年間真面目に努力を続けても、その中から有名大学への進学できるのは、せいぜい1人なのです。

その結果、残酷な話になりますが、「〇〇高校」「□□大学」のように有名校だけを追い求めるような受験は、そのほとんどが夢破れて終わっています。

そこそこの学歴を誇示したり、ふれまわるような品性のない人間は、学歴以外の面では大した能力も備わってないでしょうし、人の評価を得られることもないでしょうから、人生は出身高校や大学の名前だけで決まるものではないと思います。

---

Q 中学校であんなに勉強していたのに、高校でしなくなったのはなぜか。

A それは自分の意志で「していた」のではなく、塾などで「させられていた」。だから、高校生になって塾通いがなくなると、自分一人ではどうしていいかわからない。そういうことだと思います。

中学校の学習内容は、時間をかけて問題をたくさん解けば学力が身に付く、その程度の簡単なレベルです。

したがって、塾などの学習機関では、手っ取り早くその方法を実行しますし、それなりの成果も上がります。

しかし、大学受験を目指す高校生をきちんと指導できる学習塾は極端に少なくなりますので、ほとんどの子供達は『高校生からは自分で』というパターンになってしまいます。

そうすると、中学校時代に、志望校も学習法も目的意識も・・・、すべて塾任せだった子供達は、自分なりの対処法がありませんので、一度つまづくとどう対処していいかわからないのだと思います。

私の所でも、高校になって入塾する子供達は、ほとんどが地区ではトップレベルの進学校に通っています。

入塾の動機は、だいたい「なにをやっているのかわからない」で、彼らが共通して言いますのが、

「中学校であんなに勉強したのは何だったのか？」  
というセリフです。

高校進学後も、彼らなりに中学校時代のパターンで勉強していたようですが、時間をかけて問題をたくさん解いても成績は変わらない、つまり、中学校の時のようにはうまく行かないので、結局は「どうしたらいいのかわからない」となってしまったようです。

追記 高校生との雑談の際に「高校受験前の心理状態はどうだったか？」と尋ねることがあります。

彼らの大半は、歴史の長いトップレベルの公立高校を目指していたようですが、  
「合格すればあとは安心！良い大学へ行ける！」  
のような感覚をインプットされ、それを信じて勉強していたように感じるが多々あります。



運良く合格した人の中には、この安堵感が尾を引いて、勉強意欲が遠のいてしまった人もいるのではないのでしょうか。

彼らを指導した人の中に、「進学校は、今の何倍も大変だ」と伝えてくれる人が一人でもいれば

、入学後の彼らの意識も少しは違っていたでしょうし、気をゆるめ過ぎることなく、次の目標に向

かっていたかもしれません。

また、高校進学後の適応能力も含めた適切な進路指導があれば、ワンランク下げて、能力を活かせる高校へ進学する道もあったでしょう。

---

Q 早期教育をした方が有利だと聞いていますが・・・。

A たまたま潜在能力の高い子が早期から勉強を始め、能力が高いぶん、壁にぶつかることなく、大学までスイスイと進んだ、これが真実のような気がします。

みんながそううまく行くわけでない、むしろうまく行かないケースの方が多いのが現実  
彼らの大半は、歴史の長いトップレベルの公立高校を目指していたようですが、

「合格すればあとは安心！良い大学へ行ける！」

のような感覚をインプットされ、それを信じて勉強していたように感じるが多々あります。

ですから、学習機関が宣伝に利用するには最適な話で、

「良い高校へ行けば良い大学へ行ける」

と似たような怪しいものでしょう。

「・・・すれば良い結果が出る！」、このパターンのキャッチコピーは、ごく一部の有能な人が残し

た結果が、みんなそうなるかのように誇張されて伝わっていることが多いように感じます。

情報を鵜呑みにされるのではなく、お子さんの能力、性格を冷静に判断されて、しっかり確認された

方がいいでしょう。

親の見栄や願望が垣間見えると、相手に丸めこまれてしまいますから、面接に行かれるのならポーカーフェイスを心がけて下さい。

不安をあおるような話にも要注意でしょう。

勉強に限らず、スポーツ、音楽、どの分野でも同じだと思いますが、最後までその分野を諦める必要なく生き残れる人は、本当に限られたごく一部の才能がありかつ努力もする人だけでしょう。

残りは皆、途中で方向変換するか、あきらめるしかありません。

しかし、無理をして深入りすればするほど、費やした時間が長けれ長いほど、方向転換する際のダメージも大きいはずです。

始めるときは、親がその気にさせて入会させておきながら、結果がともなわないと、

「これだけお金がかかったのに・・・」

と、子供に責任を押し付ける、これもほんとうによく聞く話です。(笑)

とりあえず、「わが子は普通の子」を出発点にされた方が賢明な選択ではないでしょうか。

---

Q 有名進学校の生徒ですが・・・、何か！？

A 私が進学校を評価するようなことをあまり言いませんので、君のプライドが傷ついたのでしょうね。

文面から判断しますと、実は私も君と同じ高校の卒業生です。

また、歴史の長い高校ですから、君と私以外にも卒業生は何万人といます。

つまり、君も私も、only one ではなく one of them に過ぎないということです。

確かに、この地区では、高校名だけで有り余るほどの評価をしていただけますし、同じ環境で高校三年間を過ごした一人として、その評価からくる心地良さは少し理解できます。

しかし、君の言う「選ばれし者」という感覚は、私にはなかったような気がしますし、その過大評価に慢心し、カン違いしてしまうことが、まだ未熟な高校生に、時として不相応な達成感をもたせ、目的意識や成長を妨げてしまう危険性がある、今の君にはそちらを自覚して欲しいと思います。

君にとっては納得できない話かも知れませんが、君の高校、そして私の出身校は、残念ながらこの国全体で見れば、ほんとうに一地方の無名高校に過ぎません。

所詮は「井の中の蛙」ですし、もちろん君が今思っているほど社会での知名度も評価もぜんぜん大したものではありません。

また、学校名やレベルだけで競っても上には上がいきますので、場をわきまえずに誇示すると、思惑とは逆に大恥をかくこともあるでしょう。

少し厳しいことを言いましたが、その程度の無名高校に過ぎないとあきらめた方が、君のためにはプラスになるでしょうし、危機感、更には目的意識も高まり、君自身が更に成長できると思います。

君の人生はまだまだ先が長いです。

今の状況で満足するような段階ではないでしょう。

どうか、志を新たにし、高校名を誇示したり、それに依存しなくて済む、そういう品性の高い、潔い人生を目標に頑張ってください。

今は、高校生ですから、君の地区では「〇〇高校」だけで評価してもらえるでしょう。

しかし、卒業後、君自身に残ったものが高校名だけだったとすれば、今度は逆に厳しい目で見られてしまいます。

人の評価とはそういうものです。

高校名だけで幸せがつかめる、人生はそんなに楽ではないですから、早く目を覚ましてください。

---

Q 周囲の大人から「九大ぐらい行くんやろ？」と言われるのが辛いです。

A この地区では本当によくある話で、進学校のみなさんにとっては、そう簡単に言われるのは実に迷惑なことだと思います。

九州大学に合格するのがどれほど難しいことか？

それは、私もいろいろな場で説明してきましたが、

「努力が足りないだけ」「要領が悪い」

などと感覚だけの方法論で対抗される方も多く、お伝えすることは無理かなと半ばあきらめています。

君は、おごりもなく、冷静に自己分析ができているようですから、今の高校でも自分を見失うことなく過ごせるのだと思いますし、立派だと思います。

周囲の雑音は気にしないで、今後も努力を続けて下さい。

大学は、その結果として受かりそうなところを受験すれば良いと思います。

ただし、どこでも良いと言うのは避けて下さい。

高校も大学も、人生の通過点に過ぎませんし、いつまでもそんなものが通用しないことは、すでに理解できているように察します。

自分を信じて、今のペースで努力を続けて下さい。